



# 東日本ユニオンにいがた

http://niigatachihon.yukigesho.com/

## 2022年度申18号 団体交渉

### お客さまが乗車している営業列車では つらら落とし作業は行わない事を確認

新潟地本は8月29日、2022年度申18号・2022年度冬期に発生した営業列車を使用した氷柱落とし作業に関する申し入れの団体交渉を行いました。

羽越本線・村上〜羽前水沢間のトンネル内で6M・特急「いなほ6号」に添乗させた電力係員がつらら落とし作業を行いながら営業運行を行ったことに対して、お客さまを乗せたまま列車が運行不能となる恐れや、係員の安全確保の視点から申し入れを行っていたものです。

#### 関係社員に対する情報伝達・共有に課題

営業列車を使用してつらら落とし作業を行った理由を質すと支社側は、つららの確認ではなく不正経緯を質し、今回行ったつらら落としは計画的なものなのか、突発的なものだったのかを問いました。支社側は経緯について、前日の25日は大雪の影響もあり村上〜羽前水沢間で終日つらら落としを実施、26日も地上からのつらら落としを計画し実施しているとの説明がありました。

その上で、運転士からの情報に基づき、万が一に備えて1Mと6Mに係員を添乗させ、結果としてつらら落としを実施したものであり計画的なものではないとしました。

6Mに先行して運行された安全確認列車に電力社員を添乗させなかった



長具合や長時間抑止など万が一を想定し電力社員を添乗させたとの説明がありました。

当初からつららの撤去を目的とした添乗では無かったと説明する支社側に対して組合側は、電力側からすれば確認ではなくその場で除去の指示であり、だからこそ3人も添乗していたと指摘しました。

支社側は、必要があれば現地でもつららを落として良いとの指示であり、万が一の場合の体制を取ったものだとの説明がありました。

#### 安全は確保されているとの認識を示す

つららの張り出しを確保する方法を質すと支社側は、定期的な列車巡視や乗務員からの申告などにより確認し、作業を行っているとの回答がありました。

その上で、今回の様に強烈なものとは別途指示になり、他の作業員からも知得して横のつながりをしていくとしました。

つらら落としの作業の際に、き電停止をしないのかを質すと支社側は、行わないと回答し、法律に基づき保護具の使用と絶縁を求めている、違反はしていないとの回答がありました。

つららによる徐行は受けていたものの除去作業を行う認識は無かった一方で、電力社員はつらら除去作業の指示を受けて添乗していた事実を挙げ、乗務員と添乗した電力社員では認識の差があったことを指摘しました。

#### リスクを減らした中での運行だったと説明

作業時のトラブルで長時間停車となる可能性もあつたことから組合側は、444Mの教訓を踏まえれば、お客さまを乗せた営業列車でつららの除去を行ったことが理解できないと強く訴えました。

支社側は、最初からつららを落とす予定ではなく、運行は可能だが万が一のことに備えたものであると繰り返し、結果として現場係員の判断で落とすこととしました。

### 質の高いサービスが提供できる 新潟営業統括センターの体制を

#### 申3号「新潟営業統括センターにおける体制の見直し」に対する申し入れ

新潟地本は7月19日に団体交渉を行い、支社側より「新潟営業統括センターにおける体制の見直しについて」の提案を受けました。

今年3月に開始した、新潟運輸区乗務員による新潟駅との業務融合を本実施すること、運休が続いていること、



走らせているように感じると指摘し、回送・試運転列車を仕立てて作業すべきだと訴えました。支社側は、闇雲にはなく状況を見て判断したものであり、リスクを減らした中での運行だったとの考えを示しました。

#### ■申3号 申し入れ項目

1. 新潟駅における車掌の駅業務と長岡駅における車掌の駅業務内容に差異がある理由を明らかにすること。  
2. 新潟駅における車掌の駅業務は新幹線乗り換え改札口ではなく、在来線改札口とすること。  
3. 駅業務を単独で担う為の判定基準を明らかにするとともに、駅業務のプロによる見極めを行うこと。また、習熟度に応じて見習い期間の延長等柔軟に対応すること。  
4. 駅業務を行う乗務員及び駅業務を指導する駅社員に対してアンケート等有効な方法により不安や課題・問題意識等の声を収集すること。また結果について公表しフィードバックすること。  
5. 小国駅の除雪体制について明らかにすること。

新潟運輸区乗務員による新潟駅との業務融合は、融合される業務のプロを駅社員・乗務員双方の視点から育成していく必要があり、営業事故防止はもとより乗務業務への安全に対する影響等を慎重に見極める必要があります。東日本ユニオンに寄せられている、見習いを行っている乗務員や、見習いを監督する駅社員の声に踏まえれば現段階においても積み残された課題は多いと言わざるを得ません。新潟地本は9月11日、申